



日本学術会議 = わが国の科学者の内外に対する代表機関

【日本学術会議の組織としての存在意義、独自性】

- ・自律した科学者の集団であること
- ・全ての学術分野の科学者を擁していること
- ・独立性が担保されていること

日本学術会議に期待する役割

- (1) 社会的な課題に対し我が国の学術の総合力を発揮した俯瞰的・学際的な見解を提示する「**社会の知の源泉**」としての役割
- (2) 学術界をリードし学術をあるべき方向へ導く「**科学者コミュニティの道標**」としての役割
- (3) 学術と政府、産業界、国民等とのつながりの拠点となる「**社会と学術のコミュニケーションの結節点**」としての役割
- (4) 各国アカデミーや国際学術団体と連携し、地球規模の課題解決や世界の学術の進歩に積極的に貢献する「**世界の中のアカデミー**」としての役割

日本学術会議のさらなる活性化に向けて

平成17年改革により全体的に活動が活性化し、一定の成果が上がっている一方、約9年間の活動の中で新たな課題も…

改善策の提案

1. 日本学術会議の活動の在り方

- (1) 政府や社会に対する提言機能の強化
 - ① 意見集約と決定のプロセス
 - ② 事後の検証
 - ③ 緊急課題への対応
- (2) 科学者コミュニティ内のネットワークの強化
 - ① 学協会との連携
 - ② 地域の科学者との連携
 - ③ 若手科学者の意見集約
- (3) 科学者コミュニティ外との連携・コミュニケーションの強化
 - ① 広報・社会とのコミュニケーション活動
 - ② 政府との関係
 - ③ 産業界との関係

2. 日本学術会議の組織としての在り方

- (1) 会員・連携会員の在り方
 - ① 会員・連携会員の意識、活動へのコミット
 - ② 求められる人材と選出方法
 - ③ 会員・連携会員の構成
- (2) 組織としての継続性と発展性
- (3) 組織形態
- (4) 予算・事務局体制